

「感謝…」

泣き
笑い

Part.25

伊藤 知子さん (かのんさんのお母さん)

早いもので娘が保育園に通い始めて早一年が経とうとしています。保育園に預ける際、初めは泣いていた娘も、今では保育園に着くなり走っていくようになりました。そんな姿を見ると、泣いていたあの頃が懐かしく感じます。

最近は何に日に言葉覚え、お友達や先生の名前を覚えてくれたり保育園で歌った歌を聞かせてくれたりと、日々の成長を嬉しく思います。これも、家族や周りの方々、保育園の先生方からたくさんの愛情を注いでいただいているからこそと思います。これからも親子共々よろしくお願ひ致します。



「輝く泉月の笑顔に感謝」

高村 八重子さん (いづきさんのお婆さん)

泉月が生まれ、もう2年7か月になりました。入園当初は、ミルクを飲んでくれず先生方に迷惑をかけていた泉月も、今は保育園の様子を「今日は、〇〇先生がお休みだよ。」「〇〇ちゃんもお休み」と話してくれたり、魚、鳥、花など観て来た事や、園庭であそんだりした事など目を輝かせ話してくれるまでに成長しました。

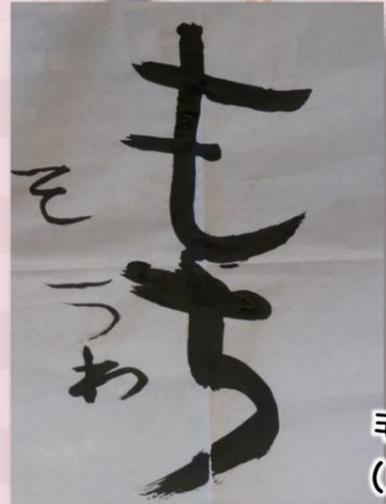
家では何をしても、いーちゃんが割り込んで来てはやりすぎて…叱られる前に、ママやばばの叱る言葉をそのまま真似して返されて…「本当にそっくりだね～」と叱る事も忘れ爆笑する毎日です。そんな泉月の笑顔に力をもらい、老体を忘れ、いーちゃんと楽しんでいる毎日です。



本のね〜

第28号

2018年3月発行
興道南部保育園
米沢市本町一丁目1-84
0238-21-3756



毛筆「もち」
(いしかわ ろうわくん 5歳児)



「五百羅漢」
(かとう ききさん 5歳児)

誕生会 自分だけの宝物

昨年度より5歳児(年長児)が司会や進行をおこなう「子どもたち主体の誕生会」を毎月催しています。さらに今年度からは、誕生月の年長児の保護者の方も招待し、保育園最後の記念になるよう楽しい時間を一緒に過ごしていただいています。当日は、参加の保護者の方に用意していただいたお祝いの手紙を我が子に向けて読み手渡してもらいます。参加できなかった保護者の方のお手紙は職員が代読させていただきます。照れながらも、お父さんお母さんから手紙をもらえることに嬉しさいっぱい様子で、席に戻ってからも

手紙を眺めたりお友だちにこっそり見せたりして“自分だけの宝物”に喜びを感じています。その様子をじっと見つめながら、年中や年少の子どもたちは「ゆりさん(年長)になったらママ来るんだ!!」と期待と憧れの気持ちを抱いているようです。

これからも“ちょっと特別な誕生会”を子どもたちと保護者の方と一緒に祝いしていきたいと思ひます。



編集後記

保護者の方の協力のもと園庭にスノーランドができました。全クラスの子もたちがワクワクしながら雪山に挑戦し冬のあそびを存分に楽しんでいます。本号は、今年度から始まった“異年齢保育”をテーマに育ち合う子どもたちの姿を追いました。今後も、刺激し合いながら育っていく姿をお伝えしていきたいと思ひますので、お楽しみいただければと思ひます。

子どもたちの「学び」に寄り添える喜び
興道南部保育園 園長 佐藤和子



「ヒイラギといわしの頭を〇〇と〇〇に飾ろう」
「鬼が滑って転ぶように豆もまこ」
「どんな豆がいい？」
など、いろいろな会話が飛び交いました。
その日からお面や鬼の嫌いなもの作りが始まり「鬼より強いのは桃太郎だ」
と、年長女児のひと言から年中児の提案で、豆まきの前日に本物のきび団子を作って食べて力を蓄える子どもたちでした。
その数日間、子どもの心に寄り添い、アイディアを引き出し、実現に向けて一緒に楽しむ保育者のかかわりがありました。
これこそが、子どもたちが主体的に友だちや保育者と深く考えて対話し、必要な体験をしながら課題解決していくこととする力(アクティブ・ラーニング)を身に付けていくということ。
「自ら学ぶ」体験であったと思われまふ。
人間の知的機能を代行するAIなどが進化する時代だからこそ、異年齢のかかわりを通して「見て学ぶ」「やって学ぶ」「教えて学ぶ」という学びの体験の積み重ねが「自ら学ぶ力」へと繋がっていくと核心しています。この学びを通して子どもたちは、二十一世紀後半をたくましく生き抜いてくれることでしょう。



1歳児の女の子のあそびを興味津々でじっと見つめる0歳児の女の子。
真似をして砂を入れようとしても...
うまくできず...
自分にも入れて~とバケツを差し出し
1歳児の女の子が砂を入れてくれるのをじっと見つめています。



してほしいのかな...

人とのかかわりを通して 学ぶ楽しさ

乳児期から2歳児までの子どもたちは、安心できる大人との愛着関係を土台にしなが、人とのかかわりや物への関心が広がり『見て、真似て、やってみよう』という意欲を育てていきます。

2歳児までに育まれた意欲は、いろいろな人とのかかわりや遊びを通して『気づく、考える、行動する』という経験を積み重ね、子ども同士がお互いを思いやり、刺激し合いながら様々なことに挑戦したり、協力し合ったりして社会性を身に付けていきます。

当園では、0歳児~5歳児の育ちにあった異年齢保育での交流を大事にしています。その安心できる関係性の中で『見て真似て学ぶ』『やってみて学ぶ』『教えて学ぶ』という学びの場面が多く見られます。このような子どもたち一人ひとりの学びの経験が“生きる力の基礎”を育てています。



うどん作り



5歳児が経験したうどん作りをトリオグループ(3・4・5歳児)でも行います。
5歳児が中心になって、どの工程を誰がするのか話し合い協力し合いながら、おいしいうどんを作るために子ども同士考え力を合わせます。



はい どうぞ!!



おそうじ

食後の掃除は5歳児がお手伝いしてくれます。
その姿を見て3・4歳児も興味を持ち始めると、5歳児がやり方を一緒に優しく教えてくれています。



砂場づくり

今年度、手触りの良い砂を新たにに入れ替えることになり園庭に山積みになった砂をスコップや一輪車で運ぶ4・5歳児さん。
その姿を見て「ほくたちも、やってみよう!!」と、次の日に砂掘りを頑張っていた1・2歳児さんたちです



ほくたちも やってみよう!!



着脱のお世話



できるとりんもね

2歳児が安心できる5歳児の男児に手伝ってもらったり、見守ってもらったりしながら、じぶんでズボンをはこうとしています。
5歳児男児は年下の子ができないところや自分でやろうとする姿を見極めかかわってくれています。